

§32.

クジラではまずい

— 〈no 比較級 than〉のもう一つの意味

ターゲット英文 32

Oh, I'm sorry I made you feel that way. Your hair looks beautiful, yet **no more beautiful than it has ever looked in the 3,465 other days that I've known you.** [上智大]

受験で必要となる文法知識や構文の知識のうち、これまで教えてきた経験から考えて、最も難しいものの一つは〈no 比較級 than〉という形式だと思います。よく教えられるのは、いわゆる「クジラの構文」と呼ばれるもので、A whale is no more a fish than a horse is. という文は「馬が魚ではないように、クジラは魚ではない」という意味だと教わります。このように、〈A no more X than B〉は概略「Bが...でないように A は X でない」という意味だと公式のように覚えている人も多いと思います(以下ではこれを「クジラ」と呼びます)。

さて、それではターゲット英文32を読んでみてください。これは会話文の問題の一部です。文脈は以下の通りです：Nina が Tom に「私の髪どう？」と聞いた時、反応に一瞬ポーズがあったため、Nina は不機嫌に。どんなにほめても Nina は全くその言葉を素直に受け入れようとしません。Tom はなんとかして Nina の機嫌を戻そうとしています。

もしこの流れで、ターゲット英文32をクジラで訳した場合、どうなるでしょうか？「君の髪は美しく見えるよ。だけど、君と知り合ってから3465日間に君の髪が美しく見えなかったのと同じように、美しく**ない**よ」となってしまい、どう考えても意味がおかしいことがわかるでしょう(こんなことを言えばNina はプチギレなはずです)。では、この英文はどのように意味を解釈すればよいのでしょうか。

本項では、受験の関門〈A no 比較級 than B〉の意味について、その解釈の

仕方を丁寧に学んでいきましょう。まずは次の文から始めます。

(1) So you have **no more** direct control over how much of a textbook you can remember **than** you do over your blood pressure. [関西大]

「だから、自分の血圧を直接コントロールできないように、教科書をどれだけ記憶できるかも直接コントロールすることはできない」

notes ▶ you do over ... は you have direct control over ... と理解する。比較級の基本的な構造については §22 を参照

まず no の働きを理解しましょう。no は比較級の前に置かれていますが、この位置には、two years older などの two years と同じく、具体的な差を表す表現が置かれます。no は「ゼロ」ですから、「差がない」ということを言っています。よって、〈A no 比較級 than B〉の文字通りの意味は「A が~なのと B が~なのは全く同じ(度合い)」という感じになります。この構文は、この意味を土台として、様々な文脈・常識を使って意味を肉付けしていきます。

(1) の英文の than 以下の部分を直訳すると「あなたは血圧を直接コントロールできる」となります。ここで、常識を働かせて考えると、明らかに血圧は直接コントロールできないことがわかりますね。よって、この部分の意味は「血圧を直接コントロールできない」と理解することになります。

言い方を変えると、than 以下に来る内容の**真実味が0%**と言うことです。それと比べて前半が「全く同じ(差がない)」ということは、結局道連れで前半も真実味0%ということになり、結果的に、訳例にあるような「~でないように...ない」といった意味になるわけです。こうしてクジラの解釈が得られるのですね。

〈no 比較級 than〉は「**想定を覆す**」という効果を持った構文です。この例を使って考えると、「血圧をコントロールできる」と「どれくらい覚えていられるかをコントロールできる」の二つであれば、普通の人であれば、前者の方がより「あり得ない」と直感的に感じるはずですが、逆に言えば、前者に比べれば、後者の方が「まだあり得るんじゃないか」と思うはずですが、これが想定です。そして、no の存在によってその想定が間違いであることが示され、結果として「二つに差はなく、共にありえない」と言っているのですね。クジラを正しく解釈するには、**B に対して常識的・文脈的判断を下すことが大切**というわけです。

さて、この種のクジラは、形容詞や副詞などの程度を比較しているというよりも、二つの命題の**真実味の比較**をして、「**真実味が同じ (=0%)**」と述べています。

§32.

クジラではまずい